

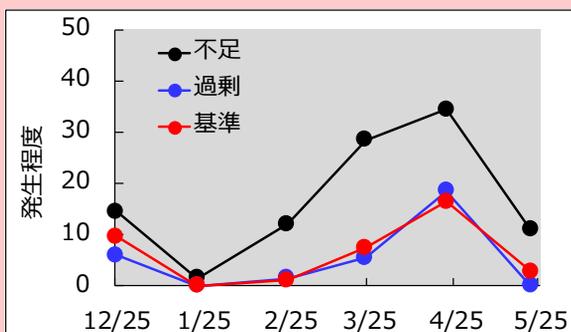
# トマト土耕栽培における葉先枯れ症 軽減のためのカリ施肥基準を設定しました

トマト葉先枯れ症の発生部位は難防除病害である灰色かび病の発生源となるため、県内産地で大きな問題となっています。そこで、発生の主な要因はカリウム欠乏とされていることから、土耕栽培（冬春・夏秋作型）における葉先枯れ症を軽減するために必要なカリの施肥量を明らかにし基準を設定しました。また、補完的な技術として「摘葉処理」の効果について明らかにしました。

## カリの施肥基準

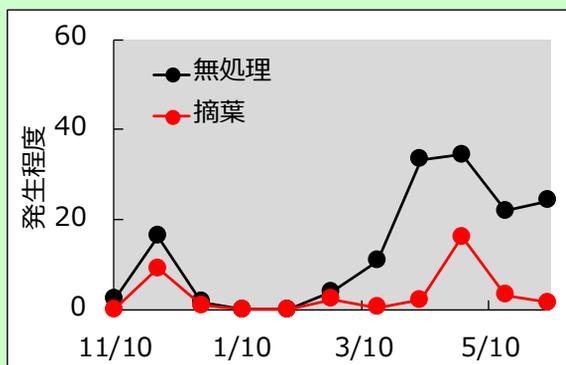
$$\text{カリ施肥量} = \frac{\text{土壌中の交換性カリ含量}}{30\text{mg}/100\text{g}} + \frac{\text{カリ吸収量}}{4\text{kg}/\text{t} \times \text{目標収量t}/10\text{a}}$$

作土部分の交換性カリ含量30mg/100gを確保し、目標収量分の吸収カリ量を施用



カリを基準量施肥することで葉先枯れ症が軽減します

## 摘葉処理の効果



摘葉処理により葉先枯れ症が軽減します

## 摘葉処理



花房の反対側に位置する葉を開花頃までに除去する手法。葉面積の管理方法として行われてきた。

## (研究成果)

- ・ 土壌診断と目標収量からカリの過不足のない適正な施肥を行うことができます。
- ・ カリの適正な施肥により不足が補われることで増収します。
- ・ カリ施肥量には土壌診断後に施用する堆肥や作付け期間中の液肥により供給する量も含めて計算します。
- ・ カリの基準施肥に摘葉処理、葉面散布を組み合わせることで葉先枯れ症を軽減する効果はより高くなります。
- ・ 摘葉処理はトマトの樹勢を弱くする場合があるので、生育状況を考慮して実施の判断をする必要があります。